＜全国納税貯蓄組合連合会優秀賞＞

税が奏でる未来の音

郡山市立富田中学校　３年　山田　莉音

「税金って大人が払うものだから、私にはまだ関係ない。」

少し前までの私は、本気でそう思っていました。税金と聞くと「消費税が上がる」「お金を払わなければならない」といった話ばかりが頭に浮かび、正直あまり良いイメージはありませんでした。しかし、学校で税について学び、自分の学校生活を振り返るうちに、その考えは少しずつ変わっていきました。

私は吹奏楽部でコントラバスを担当していました。毎日の練習では音楽室や楽器、譜面台などを使い、コンクールや演奏会では体育館やホールなどの施設を利用します。大会の日は、「仲間と最高の演奏をしたい」という気持ちでいっぱいで、それらの施設や設備がどのように整えられているのか考えたことはありませんでした。でも、大会を終えた後、安心して演奏できる場所があることや、毎日不自由なく部活動ができることは、決して当たり前ではないのだと気づきました。学校の校舎や体育館、安全な道路や救急など、私たちの生活を支える多くのものが税金によって支えられています。私が毎日安心して学校へ通い、勉強や部活動に打ち込める環境も、多くの人が納めた税金によって守られていることを知り、税金は自分とは遠い存在ではなく今の私の生活に深く関わっているものなのだと感じました。

コントラバスは、メロディーを演奏することは少なく、目立つ楽器でもありません。しかし、低音で全体を支え、ほかの楽器が安心して演奏できる土台をつくっています。演奏中は、自分の音

だけではなく周りの音にも耳を傾け、みんなと息を合わせることで、一つの音楽が完成します。もしコントラバスの音がなくなれば、演奏全体に物足りなさを感じてしまうでしょう。私は、税金もコントラバスとよく似ていると思いました。普段、税金を意識することはあまりありません。しかし一人一人が納めた税金が集まることで、私たちの生活に欠かせないものが支えられています。普段はあまり目立たなくても、なくてはならない存在であることが、コントラバスと重なって見えました。税金は「払うもの」というだけではなく、みんなで支え合い、安心して暮らせる社会をつくるための大切な仕組みなのだと考えるようになりました。

　将来、私も社会人となり、税金を納める立場になります。そのときは、自分が納めた税金も、誰かの学校生活や夢を支える力になっていることを忘れずにいたいと思います。吹奏楽でコントラバスが目立たないところで演奏全体を支えているように、一人一人が納める税金も、誰かの暮らしや未来を支える大切な力になります。私も社会を支える一人として、自分の役割をしっかり果たし、誰かの未来を支える「音」の１つになれる大人になりたいです。